



停電時の介護ベッドとエアマット

台風や集中豪雨などで、夏から秋にかけて停電になる恐れがあります。介護ベッドやエアマットは電気で動くので、停電になると大変。どんな対処をすれば良いのか、事前に確認しましょう。

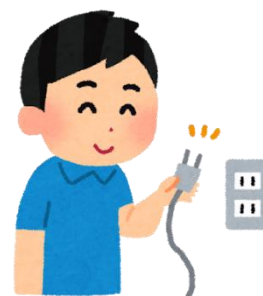
事前の準備が大切

介護ベッドやエアマットは電動なので、停電すると動きません。大雨や強風、落雷などによる停電は、天気予報であらかじめ「起こるかも知れない」ことが予想できるので、あわてずに済むよう、事前に準備をしておきましょう。



停電時の介護ベッド

介護ベッドは電動式なので、停電すると基本的に操作はできなくなります。停電が予想される際は、あらかじめ「あたま」「あし」を完全に下げ水平にし、「たかさ」を安全のために一番下にしておくことをおすすめします。また、電気部品の不具合を避けるため、停電したらコンセントは抜いておき、復旧したら再度差しましょう。



一部には、停電時に操作できる手動のハンドルや内蔵バッテリーが備わっている機種があります。お使いのベッドにも備わっているかどうか、備わっている場合は使い方を確認しておきましょう。



手動ハンドルの例



ハンドルを回して操作します

停電時のエアマット

エアマットは電気でポンプを動かし送風するため、停電すると徐々にマット内の空気が抜けてきます。一番注意すべきなのは、底つき状態（マットがしぼみ、身体がベッドの床板に当たる状態）を起こし、苦痛で危険な状態になってしまう状況です。

最近のエアマットの多くは、停電時に底付きを起こさないような装備がされています。（空気が抜けにくい、ウレタン層があるなど）お使いのエアマットはどうなっているか、事前に確認しましょう。



空気が抜けにくい（2週間程度）
構造のエアマットの例



ウレタン層のある
エアマットの例

また、停電前の設定（体重・動作モード等）がリセットされてしまう恐れがあります。最近の機種の中にはメモリ機能が搭載されていますが、念のため、停電復旧時には確認をしましょう。介護ベッドと同様、停電したらコンセントは抜き、復旧してから再度差しましょう。

空気圧の切り替えをしないので、定期的に体位変換をおこなうことをおすすめします。

お使いの介護ベッドやエアマットを事前に確認しておきましょう。

参考：パラマウントベッド株式会社ホームページ

株式会社モルテンホームページ

ケーブ株式会社ホームページ